

1. 現在市販されているジャージを用いて縫製するツーピース、コートその他の外衣用のものには、芯地を用いて型を整えているのが現状である。そこで一般に市販されているダブルジャージを用いてそれにつける各種の芯地をつかい、衿について、ドライクリーニングおよびウェットクリーニングにおける外観の変移傾向を見てみた。

2. 実験材料は、表地にダブルジャージの毛100%およびアクリル100%の2種類を、また芯地には毛100%のものとポリエステル55%レーヨン45%のもの、さらにジャージ用として市販されているナイロン100%のかさ高加工糸使いのものをを用いた。実験方法としては2種類の表地に各種の芯地を八刺専用のすくい縫ミシンにより平均になるように八刺をおこない衿を作成した。これを試験片としてドライおよびウェットクリーニングを

1回, 3回, 5回くり返し行なった際の形状の変化を外観的に写真によって観察した。形状変化の測定は衿の正面からの開角度を測定する目的でイレギュラーの条件をなくすための機具をつくり調整をはかった。

3. 衿の開角度を測定した結果, 2種類の表地による芯なしのものでは, クリーニングを重ねるごとに布のこしがなくなり開角度がせまくなることがわかった。3種類の芯を素材の異なる表地につけた状態で見ると特にニット用の芯がすぐれているともいえない結果であった。